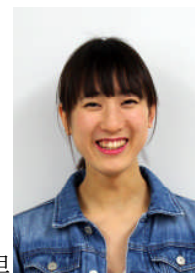


和歌山病院での実習を終えて



木村 優里

3/27、3/28の2日間、和歌山病院で実習をさせていただきました。大学を離れて実習するというので、少し不安もありましたが、実際にはとても有意義な2日間になりました。

感染症、特に結核についての講義では、結核が気道からしか感染しないことや適切な予防策を取ればむやみに怖がる必要はないことを教えていただきました。N95マスクをつけて結核病棟に入った際には、扉が2重になっていて、外に空気が漏れにくいようになっていたり、病室や廊下が陰圧になっていたり、これまでイメージが付きにくかった部分を目で見て学ぶことができました。現在でも専門の病床があるほど結核患者さんがいらっしゃることは意外に思いましたが、結核に対するハードルが少し下がった気がしました。また肺の画像で粒状影、すりガラス陰影になるときの病態も教えていただき、画像の理解が深まりました。

南方先生のセミナーでは、まずレントゲン写真の読影について教えていただきました。レントゲン写真と影絵の違いやレントゲン写真で線ができる仕組みを理解していれば、平面の写真から元の立体の構造を想像できるということを知り、とても面白かったです。ぼんやりとした印象だった胸部の画像も、構成するもの1つ1つを考えれば理解しやすいということがわかり、今まで苦手だったレントゲン写真が、自分から見てみたいと思うようになりました。また、身体を使ったブロンコ体操も教えていただき、肺の区域を楽しく覚えることができました。

呼吸不全時の酸素療法についてのセミナーでは、マスクを実際に着けながらその違いを教えていただき、どんな場合にどのマスクを使えば良いかを理解することができました。私が着けたのは経鼻カニューラでしたが、高流量だと鼻が乾燥しそうになるなど患者さんの感じ方を知ることができたことも良い経験になりました。

人工呼吸器のセミナーでは、この200年で呼吸器が大きな変遷を遂げたこと、現在の呼吸器ではメーカーによって各モードにいろいろな呼び方があることを教えていただき、病院で必要不可欠な呼吸器について興味を持つことができました。

この実習では、座学ではなかなか学べないような実地に即した内容を学ぶことができ、自分で考えることの大切さにも気づくことができました。美味しいご飯にも連れて行ってくださった南方先生はじめ、貴重な機会を下さった和歌山病院の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。